



第30回
企画展

多賀城碑が映す 古代東北と北方世界

令和2年 10月3日(土) ~ 12月20日(日)

展示の趣旨

4年後に控える2024年は、多賀城碑に記された神亀元年（724）の多賀城創建から1300年という節目の年にあたる。その年代的根拠となる資料は、多賀城碑が唯一のものであることから、その重要性を機会あるごとに普及啓発していくこと、そして2024年という記念すべき年に向かって計画的な普及啓発活動を続けていくことが必要と考える。

本展示は、多賀城碑の形と文字、銘文の中の多賀城創建、そして蝦夷国、靺鞨国という二つのクニの名称から、多賀城碑が製作された時代背景を探ろうとした一つの試みであり、多賀城碑が東北地方にとどまらず、我が国の古代史上きわめて重要な歴史資料であることを改めて考える機会とするため企画したものである。

多賀城碑とは

大野東人による神亀元年の多賀城創建と、藤原朝鸞による天平宝字6年の多賀城修造という、奈良時代の正史には見えない二つの事実と年代を刻む。さらに建立年月日は朝鸞が参議に就任した日であることから、この碑は多賀城修造を記念し、ひいては朝鸞自身を顕彰した碑といえよう。

多賀城碑と古代日本の碑

現存する19基の古代の碑のうち、多賀城碑は、その規模や円首という形状、記載内容から、ひと際異彩を放つ存在である。



多賀城碑 東北歴史博物館提供

神亀元年の多賀城

大宝律令が制定されて地方行政制度が整備されると陸奥国にも国府が置かれた。その時期の陸奥国府と考えられているのが仙台市長町にある郡山遺跡で、神亀元年に創建された多賀城にその機能が移されたという。



自然堤防上に立地する郡山遺跡
仙台市教育委員会提供



低丘陵から低湿地にまたがって立地する多賀城

渤海と靺鞨

渤海国は複数の靺鞨部族を母体として建国されたが、黒水靺鞨は渤海に属することなく、独自に唐との関係を築いていた。



古代の東アジア

蝦夷のクニ

陸奥国の北に広がる蝦夷の世界は、政府との関りをもつ者とするのではない者、国内と同じ生活基盤がある一方、北海道の文化の影響を色濃く受けているなど、多様性に満ちた地域であった。



鳥矢ヶ崎古墳出土の帯金具
栗原市教育委員会蔵



白地横穴墓出土の装身具
登米市教育委員会蔵

記念講演会「多賀城碑とその時代」

日時：令和2年10月24日（土）

午後1時20分～午後4時30分

会場：多賀城市文化センター小ホール

講師：平川 南氏（人間文化研究機構機構長）

多賀城碑が刻む「激動の古代東北」

佐藤 信氏（東京大学名誉教授）

藤原仲麻呂政権下における律令国家の東北政策

多賀城市埋蔵文化財調査センター
（多賀城市文化センター内）

開催時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日（祝日は除く）、祝日の翌日

〒985-0873 宮城県多賀城市中央二丁目27-1

Tel：022-368-0134

